

4. 10 CADデータ連携

4. 10. 1 住宅設計CADのデータ連携について

STRDESIGNは、数社の住宅設計CADシステムからデータの取り込みが可能となっております。

(1) STRDESIGNの連携データが作成できるCADシステム

- ・ SUNCAD V4.0L01
- ・ 建築 Vision 2 Ver2.0
- ・ MADRIC・CG2000 Ver16.0
- ・ Super Soft V7.0
- ・ ザ・プランナー
- ・ DBS CAD

※CADデータ連携の最新情報は弊社ホームページにてご確認ください。

連携データの使用方法は「4. 10. 2 連携データの読み込み」を参照ください。

STRDESIGNの連携データ作成方法については各CADメーカー様にお問い合わせください。また、プレカットCADとのデータ連携については弊社ホームページを参照ください。

(2) データをSTRDESIGN用に変換できるCADシステム

- ・ ARCHI TREND 21

連携データの作成方法は「4. 10. 3 アーキトレンドデータの変換方法」を参照ください。

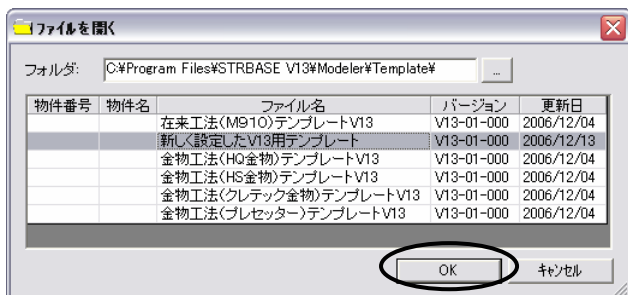
4. 10. 2 連携データの読み込み

(1) 事前準備 (テンプレートの作成と適用)

CAD 連携データは基本的に仕様情報(材料や荷重など)を含んでおりませんので、STRDESIGNにて連携データを読み込む際に、自動で仕様情報が追加されます。

通常、連携データをSTRDESIGNで読み込むと、STRDESIGNの標準仕様情報(テンプレート)が追加されます。事前に設計者固有の仕様情報を準備しておく、連携データにその仕様を採用することができます。

※STRDESIGNの標準テンプレートを使用される場合は、本手順は必要ありません。



※上図の名称は例です。

① テンプレートを準備します。テンプレートの作成方法は「4. 2. 2 テンプレート」を参照ください。

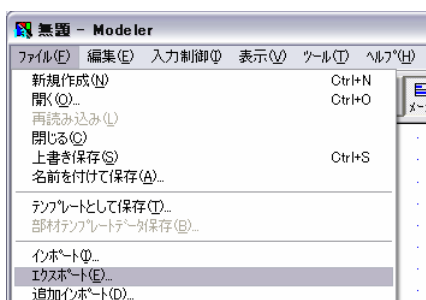
② STRDESIGNの「開く」ボタンをクリックし、準備したテンプレートを開きます。(新規作成では開かないでください。)

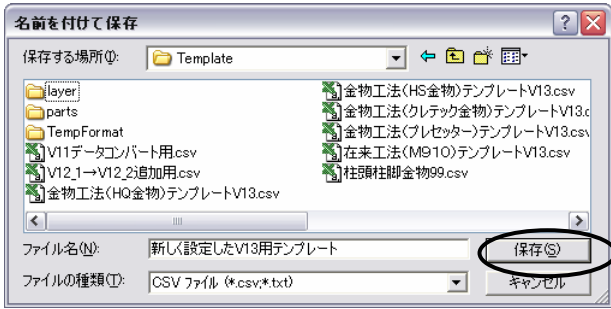
通常、テンプレートは以下の場所にあります。

C:\Program Files\STRBASE V13

\Modeler\Template\

③ 「ファイル」メニューから「エクスポート」を選択します。

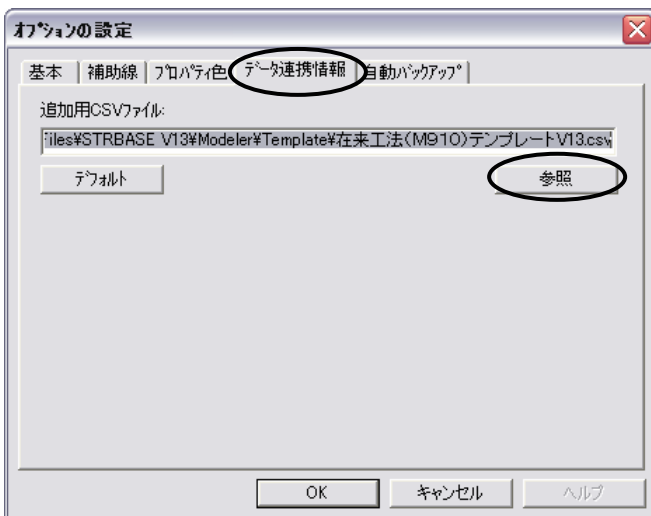




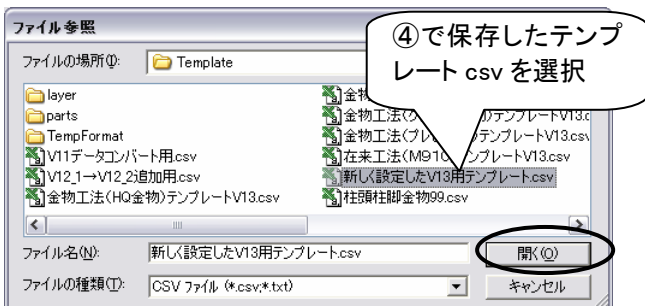
- ④ 「名前を付けて保存」画面において、「保存」ボタンをクリックします。(必要に応じてファイル名称を変更してください。)



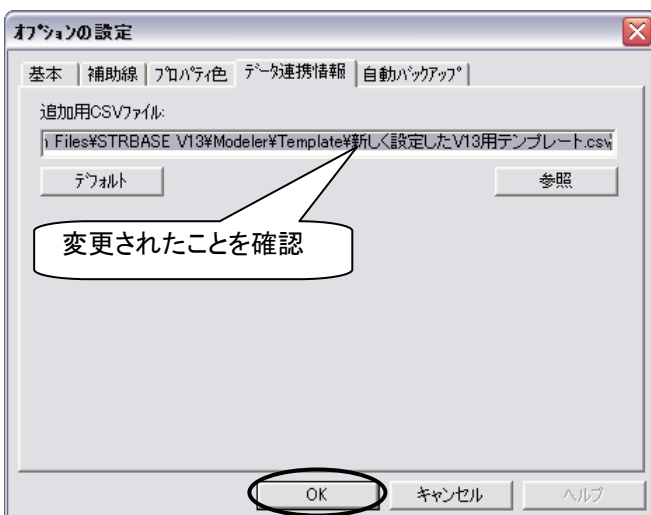
- ⑤ 続いて、「ツール」メニューから「オプション」を選択します。



- ⑥ データ連携情報タブを参照し、「参照」ボタンをクリックします。



- ⑦ 「ファイル参照」画面において、④で保存したテンプレートの csv ファイルを選択し、「開く」ボタンをクリックします。

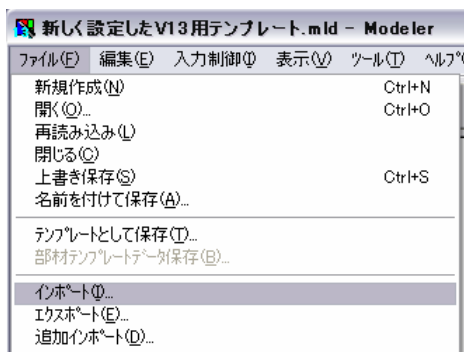


- ⑧ 「オプションの設定」画面において「追加用 CSV ファイル」の欄が、新しいテンプレート名称に変更されたことを確認し、そのまま「OK」ボタンをクリックします。

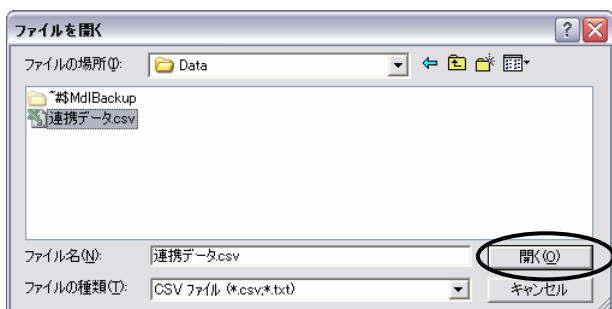
これで事前準備が完了です。

(2) 連携データの読み込みと修正

連携データはインポートすると、自動的に仕様情報が追加されて STRDESIGN に読み込まれます。ただし、一部の部材については、仕様情報を手動で設定する必要があります。

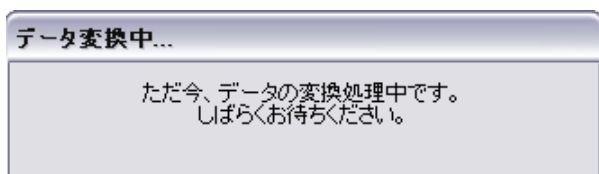


- ① STRDESIGN を起動し、「ファイル」メニューから「インポート」を選択します。

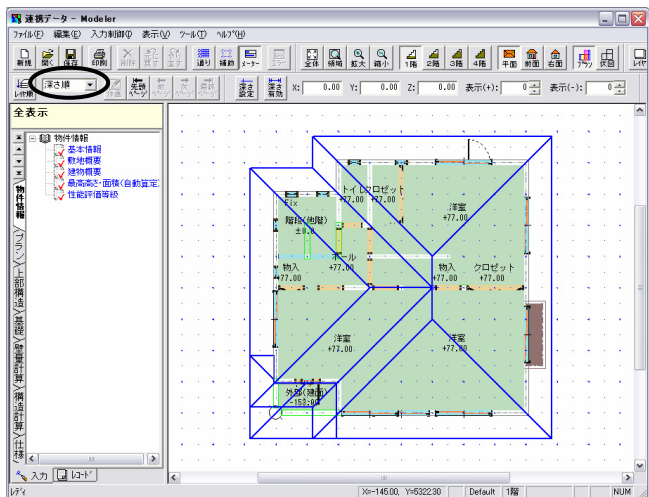


- ② 「ファイルを開く」画面において、CAD システムで作成した連携データファイルを選択し「開く」ボタンをクリックします。

※連携データファイルの作成方法は、各 CAD メーカー様にお問い合わせください。



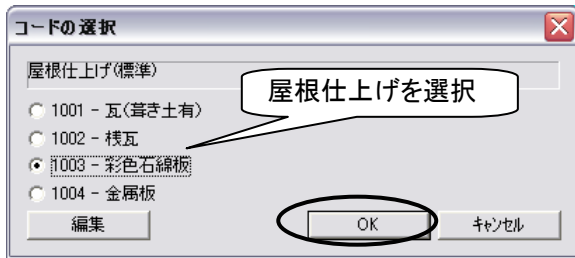
- ③ 自動的に仕様情報が追加されます。



- ④ 読み込まれたデータが表示されます。屋根等が見にくい場合はレイヤの「入力順」を「深さ順」に変更してください。



- ⑤ 一部の部材の仕上げを仕様情報に合わせて変更します。まず、「基本情報」タブの「建物概要」をダブルクリックします。「屋根仕上げ(標準)」をクリックします。



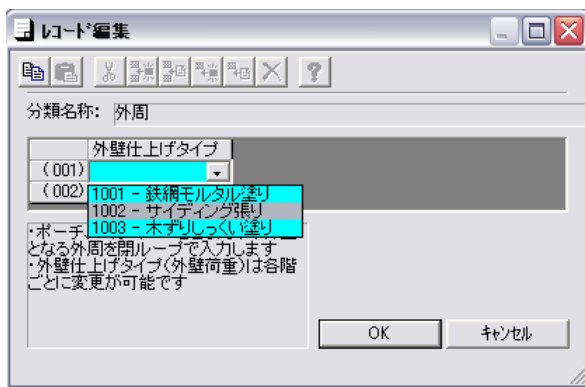
- ⑥ 「コードの選択」画面にて「屋根仕上げ」を選択し、OKボタンをクリックします。



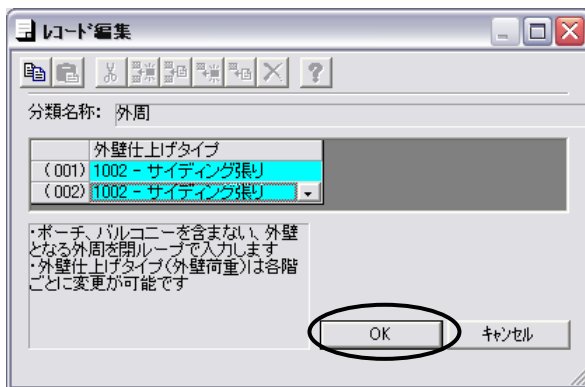
- ⑦ 「外壁仕上げ(標準)」も同様にクリックし、設定が完了したら「更新」ボタンをクリックします。



- ⑧ 次に「プラン」タブの「外周」を右クリックし、「編集」を選択します。



- ⑨ 「レコード編集画面」において「外壁仕上げタイプ」を選択します。



- ⑩ 選択が完了したらOKボタンをクリックします。

- ⑪ ⑧～⑩と同様の操作を以下の部材についても行ってください。

(下記の部材が連携データに存在しない場合は必要ございません。)

- ・屋根(「仕上げ」を変更)
- ・部屋(「部屋・収納種別コード」が空欄の場合)
- ・面材(「面材タイプ」が空欄の場合)
- ・筋かい(「筋かいタイプ」が空欄の場合)
- ・床組(「水平構面タイプ」を変更)
- ・アンカーボルト(アンカーボルトタイプを変更)

- ⑫ 以上で、連携データの読み込みは完了です。

マニュアル「3.1 入力内容」の「(2)部材データ」を参照し、耐力壁や上部構造、基礎などの構造計算に必要な部材データをさらに追加してから構造計算を実行します。

※連携される部材データの種類は、ご使用になられている CAD により異なります。詳細は弊社ホームページを参照いただくか、各 CAD メーカー様にお問い合わせください。